

# まほろん

通信

Shirakawa since 2001



かご目の向こうに、何が見えるかな？



◇特集◇

## 「ワザの考古学」

～わくわクニイさんが語る  
「ものづくり」の歴史～

■シリーズまほろんのヒミツ4■

拝見！むかしの  
晩ごはん！之巻

■シリーズ遺跡発掘最新情報2■

「バスケットボール」を  
描いたのは、誰ですか？

～会津若松市鶴沼B遺跡出土  
人面墨書土器と西坂才遺跡出土の硯～

■コラム■

「まほろん森の塾」の活動

# ワザの考古学

## ～わくわくニイさんが語るものづくりの歴史～

まほろんで取り組んでいる大昔から伝わる「くらしのワザ」の復元について、わくわくニイさんが解説します。

文：國井 秀紀（専門学芸員）

で穀物こくもつを選別する「箕み」という道具をつくってきた職人の方が、震災と原発事故をきっかけに箕の製作ができなくなったと知ったことだったんだ。幸い、震災の前に撮られた「箕づくり」の映像記録があり、それを何度も何度も見て、ぼくは、見よう見まねで、箕の作り方を覚えたんだ。そして、箕のことだけでなく、「かご」の編み方も覚えるようになった。そうしたら、いつの間にか、誰かがぼくのことを「ワザの伝道師 わくわくニイさん」と呼ぶようになったんだ。

箕やかごなどの道具をつくる「編み組あぐみ」のワザは、実はとっても古いんだよ。まほろんにも、福島県内の遺跡から見つかった「編み組」の跡が残る土器が、たくさんある。でも、こうした「くらしのワザ」は、現代の便利な生活の中で、どんどん失われている。職人さんたちも、ほとんどが高齢で、後継ぎもいない。だから、急いで記録に残していかなきゃいけないんだ。最近のぼくは、寝ても覚めても、そんな職人さんたちのことばかり考えているんだ。

ぼくが、今、一番やりたいと思っていること。それは、大昔から伝わるワザを研究したり、現代の職人のワザを、ぼく自身が実際に覚えたりしながら、そのワザの復元が可能な記録をつくることなんだ。でも、ぼく一人では、貴重なワザを残していくことはできない。だから、ぼくは、



来館者と一緒にかご編みの体験

ジャジャジャ～ン！ まほろんの「ワザの伝道師でんどうし」こと、わくわくニイさんだよ！なぜ、ぼくがこのように呼ばれてるかって？・・・これまで秘密にしてきたけど、今回は皆さんに、その理由をコッソリ教えちゃいます。

ぼくが「ワザの伝道師」になろうと決めたまっかけは、平成23年3月の東日本大震災と福島第一原発事故のあと、福島県内でわずかに受け継がれていた大昔からの貴重な「くらしのワザ」が、急速に失われているって知ったからなんだ。

その中でも、ぼくが一番ショックだったのは、南相馬市おだか小高区



わくわくニイさんと相棒のケロリ

まほろんにも、福島県内の遺跡から見つかった「編み組」の跡が残る土器が、たくさんある。でも、こうした「くらしのワザ」は、現代の便利な生活の中で、どんどん失われている。職人さんたちも、ほとんどが高齢で、後継ぎもいない。だから、急いで記録に残していかなきゃいけないんだ。最近のぼくは、寝ても覚めても、そんな職人さんたちのことばかり考えているんだ。

ぼくが、今、一番やりたいと思っていること。それは、大昔から伝わるワザを研究したり、現代の職人のワザを、ぼく自身が実際に覚えたりしながら、そのワザの復元が可能な記録をつくることなんだ。でも、ぼく一人では、貴重なワザを残していくことはできない。だから、ぼくは、まほろんに来てくれるみんなにも、このワザを体験してもらって、少しでも多くの人に、その素晴らしさや、大切さを知ってもらいたいと思って、頑張っているんだ。

まほろんでは、1月14日（土）から2月12日（日）まで、歴史再発見事業資料展「編み組技術のルーツと現在」を開催するんだ。その中でも、大昔から現代に受け継がれてきた「くらしのワザ」について、くわしく紹介するよ。

相棒あいぼうのケロリや、まほろんの仲間たちと一緒に頑張るから、これからも応援してね！！

### 表紙の1冊

昔から、くらしの中で使われてきた「かご」。その多くは竹などの植物から、編み組の技術（ワザ）でつくられています。縄文時代の土器からも、その痕跡が見つかっていて、非常に長い歴史があります。プラスチック容器などの普及で、こうした編み組の製品は、私たちの生活から消えつつあり、技術も失われつつあります。まほろんでは、この貴重なワザを後世に伝える取り組みをしています。

# 拝見！むかしの晩ごはん

## 之巻

まほろんの常設展示室から「むかしの晩ごはん」についてご紹介します。

文：佐藤 啓（専門学芸員）



縄文時代の食卓

まほろんの常設展示では、住まいと家族のだんらんをテーマに、各時代の晩ごはんが展示されています。今回は、なぜ食材が復元できるのか、ご紹介します。

縄文時代は「秋」、弥生時代は「夏」の晩ごはんを復元しています。これらの多くは出土品や当時の環境、各種の分析結果から復元しました。まほろんで行っている分析では、ふくしまの縄文人が植物と肉類を多く食べ、海洋性の魚は少なかったことが分かってきています。また、弥生時代に生産が始まった米は、当初は土器で煮ていまいましたが、カマドが設けられた古墳時代には甑こしきにのせて蒸して食べるようになりました。

奈良・平安時代は「冬」の晩ごはんをテーマとし、「醬ひしお」という調味料をもちいた干物や漬物、スープなど、主に保存食を復元しています。調味料は、鎌倉・室町時代になると種類が豊富になり、



鎌倉・室町時代の食卓

これらを使った「日本食」のルーツがはぐくまれていくことになりました。まほろんでは、味噌や豆腐といった豆類を用いた食材や、これらを加工した擂鉢なども展示しています。この時代になると、残された書物の記載からレシピを再現する試みもなされています。

さて、展示室をめぐったら、おなががすいてきましたね。今日の晩ごはんはなにかなあ・・・。

### コラム 「まほろん森の塾」の活動

子どもたちが様々な昔のワザを体験する「まほろん森の塾」を紹介します。

文：柿沼 梨沙（学芸員）

まほろん森の塾は、昔の暮らしや技術を体験して学ぶ通年の講座です。

今年度（第16期）は、小学校4年生から6年生までの14名の塾生が参加し、全6回の講座で「鹿角の釣り針づくり」、「カラムシの紙づくり」、「縄文時代の料理づくり」、「ホウキモロコシを使ったホウキづくり」などを体験しました。

なかでも、11月13日（日）に行った第6回の「ホウキづくり」では、材料の採取から製作までの工程を塾生に体験してもらいました。

「ホウキモロコシ」は、江戸時代の終わり頃からホウキの素材として用いられてきた植物ですが、国内での栽培数も年々減少し、これを使ってホウキを作る職人も減少しています。

今回の「ホウキづくり」では、はじめに、まほろん古代の畑でとれた「ホウキモロコシ」の穂から種をとる作業をしました。その後、良質な素材を十数本選び出し



第16期まほろん森の塾生

て、糸で固定し、先端をハサミで切りそろえて、オリジナルのホウキを完成させました。「ホウキづくり」は、塾生達にも貴重な経験となりました。活動の最後に行った記念撮影では、塾生達は出来上がったホウキを手に取り、とても嬉しそうでした。全6回の活動を終えて塾生達も成長した様子がかがえました。



ホウキづくりの様子

# 「バスケットボール」を描いたのは、誰ですか？

会津若松市鶴沼B遺跡出土人面墨書土器と西坂才遺跡出土の硯

文：阿部知己（専門学芸員）



硯（会津若松市西坂才遺跡出土）



硯の模様拡大写真

みなさんは、絵を描くのは好きですか？

絵といえば、会津若松市内で発掘調査を行っていたころ、絵が描かれた平安時代の土器などを土の中から掘り出したことを思い出しましたので、今回紹介します。

最初に紹介するのは、土師器と呼んでいる素焼きのお椀の外側に、黒い墨をつけた筆で描かれた「おじさん」の顔（下の絵）です。この鼻ペチャの表情は、昭和の頃に人気のあったギャグマンガにでも出てくるような顔に見えませんか！？

もう一つは、皆さんが習字をするときに使う硯に描かれた絵です。硯を粘土から作っている途中で、台の部分に、竹串のような棒を使って、複雑な模様を描いたものです（左下の写真）。写真中央の丸く描かれた部分は、まるでバスケットボールをマネして描いたように見えますよね。これら2つの絵は、いったい何を描いたものなのでしょう？

硯に見られた模様は、当時（今から約1,200年ほど前）の人が、流行りの図柄を思い出しながら、描いたものなのでしょう。現代の人が見ると、丸の内側に、縦線や横線などを引いた図柄が、たまたま、ボールのように見え、勘違いしてしまいますよね。

顔の描かれた土器は、当時の人びとを苦しめていた病気を治すためや、悪いことが起きないようにおまじない用として使われていたようです。土器の顔は、疫病神など、迷惑な神様を描いているとも言われています。「これで病気が治れば、いいのだ」と、いったところでしょうか。

土器の外側に墨で描かれた顔（会津若松市鶴沼B遺跡出土）

## 編集後記

前号（Vol.61）の表紙を飾った「室町時代の館」の櫓ですが、まほろん開館以来15年にわたって風雪に耐えてきました。長年死守してきたまほろん兵（職員）の奮闘もむなしく、その後まもなく落城（解体）してしまいましたが、このたび、新たによみがえりました。15年前の威容を再び見ることができて、感慨もひとしおです。（博）

## まほろん掲示板

- |                              |   |
|------------------------------|---|
| 1/7 (土) ~ 15 (日) まほろん写真コンテスト | 1/28 (土)・29 (日)                               |
| 1/14 (土) 歴史再発見事業資料展          | 縄文土器づくり上級編①・②                                 |
| 「編み組技術のルーツと現在」(~ 2/12)       | 2/4 (土) 第5回館長講演会                              |
| 1/15 (日) 文化財講座               | 2/12 (日) アクセサリーをつくろう                          |
| 「古代ふくしまの歴史的画期」               | 2/19 (日) まほろん冬まつり                             |
|                              | 2/25 (土) 地方史研修「史実検証の手法」<br>— 神指城と直江状の検討をもとに — |
|                              | 2/26 (日) 縄文土器づくり上級編③                          |
|                              | 3/4 (土) 収蔵資料展「縄文土器の年代II」<br>(~ 5/7)           |

★お気軽にお問い合わせください！

## まほろん 通信 vol. 62

平成29年1月15日発行

開館時間 9:30 ~ 17:00 (入館は16:30まで)  
休館日 月曜日 (月曜日が祝日・休日の場合にはその翌日ですが、GW及び夏休み期間中は開館します) / 国民の祝日の翌日 (土・日曜日に当たる場合は開館 / 年末年始 (12月28日~1月4日))  
入館料 無料 (体験学習によっては、材料費が必要な場合があります。)

お問い合わせ



〒961-0835 福島県白河市白坂一里段 86

☎ 0248-21-0700

fax 0248-21-1075

ホームページ

まほろん

検索

